

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

【めざす学校像】

生徒に寄り添い、「じりつ」を支える学校

【生徒に育みたい力】

①「わかる!できる!のびる!」を実感し、体得する基礎学力 ②主体的に活動し、社会でたくましく生きる力

2 中期的目標

1 確かな学力を育成する

(1) 生徒の学ぶ意欲を高める「わかる授業」「面白い授業」の実践。

ア モジュール授業や入門科目により、基礎・基本的事項の確実な定着を図る。

※基礎学力診断テストにより生徒の基礎学力の定着度を把握し、指導の改善を図る。

イ 生徒1人1台端末の効果的な活用に向けて校内体制の整備を進めるとともに、ICTの活用も含め学校全体で計画的に研究授業や校内研修を行うことで授業力の向上を図り、生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業を実践する。

(2) 選択科目やエンパワメントタイムの充実

(3) 進学特別講習や補習を行うなど、生徒の進路実現や学習理解の促進を達成するための学習支援を推進する。

※学校教育自己診断における「生徒の授業に関する肯定的意見」の割合を令和6年度には78%以上とする。

(R1 64%、R2 69%、R3 77%)

2 進路を実現するため、系統的なキャリア教育を推進する

(1) 「キャリア教育ロードマップ」による計画的なキャリア教育を推進し、「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」「人生設計学」等のエンパワメントタイムなどにおいて、系統的な学習を実施する。

(2) 英語や情報に関する資格の取得を促進する。

(3) キャリア教育コーディネーターとの連携を深め、説明会や授業など様々な機会において、キャリアプランニングに関する取組みを行う。

※進路未決定率ゼロを達成するために、学校教育自己診断における「生徒のキャリア教育に関する肯定的意見」の割合を令和6年度において、75%以上を維持する。

(R1 73%、R2 76%、R3 79%)

3 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する

(1) 進路実現に必要な基本的な生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。

ア 遅刻指導・服装指導・頭髪指導を丁寧に実施し、基本的な生活習慣を確立させる。

イ すすんで挨拶する態度を身につけさせる。

ウ 交通マナー向上の取組みを強化する。

(2) 生徒理解と中途退学防止の取組みを組織的に発展させる。

ア 様々な機会を通して生徒の話を聴き、生徒の複雑な生活背景を把握したうえで指導を行う。

イ 課題を抱える生徒の指導、支援の方針を担任会、保健・相談部会、教育相談連絡会、支援委員会などで組織的に検討し、個別の指導計画の作成をすすめ、支援の充実を図る。

ウ SC、SSWなど専門人材の有機活用と関連機関との連携を進める。

(3) 家庭、地域、中学校との連携を強化し、開かれた学校作りを進める。

ア 地域清掃活動及び地域の高齢者施設、幼稚園、支援学校等との交流活動の充実を図る。

イ 文化祭・体育祭などの学校行事における保護者の参加を促し、PTA活動を活性化する。

ウ 公開授業や出前授業を積極的に行い、エンパワメントスクールとしての新たな取組みを地域や中学生、保護者等へアピールする。

※中途退学率・生徒指導案件数を前年度数値以下とする。

4 自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する

(1) 人権・国際理解・道徳の各教育の取組みを有機的に推進し、豊かな人間関係をつくる力を育成する。

ア アサーショントレーニング・アンガーマネジメントなどによりコミュニケーション力を育成する。

イ ユネスコスクールとして、SDGsの視点を踏まえた国際理解教育を推進する。

ウ 「道徳教育推進教師」を中心に教科を横断した道徳教育の展開に取り組む。

エ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に取り組む。

オ 新型コロナウイルス感染症については、学びの保障とあわせて、偏見や差別が生じないように指導する。

(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める。

ア 行事や生徒会活動、部活動等を通じて、集団の中で人と調和しながら活動できる力を育成する。

イ 部活動の充実を図り、加入率を高める。

ウ 多様性を包括する集団作りを通じて、公共心を育成する。

※部活動加入率を令和6年度には40%以上とする。(R1 32.8%、R2 38.0%、R3 32.4%)

5 教職員の資質向上と校務の効率化を推進する

(1) 教職員の学校運営への参画意識の醸成

(2) ウェブ研修コンテンツの活用や全教員参加の全校一斉研究授業を実施する。

(3) OJTを中心とした研修を計画的・組織的に実施し、初任者等経験年数の少ない教員の資質向上を図る。

(4) フォロアーシップを高め、ミドルリーダーの育成に力を入れる。

(5) 教職員のICT活用能力を高め、会議や校務の効率化を図り、教職員の事務作業に係る時間を軽減する。

(6) 「部活動の在り方に関する方針」に則った効率的、効果的な部活動を実施する。

※研究授業・公開授業の全員参加をめざす。

※令和6年度までに、教員の超過勤務月平均時間を30時間以下とし、維持していく。

(R1 28.7時間、R2 21.9時間、R3 17.9時間)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>○「中期的目標1 確かな学力を育成する」について、以下の項目を検証した。</p> <p>「授業はわかりやすい」 生徒 82% (昨年度比5%増) 保護者 78% (昨年度比11%増)</p> <p>「教え方に工夫をしている先生が多い」 生徒 82% (昨年度比7%増)。 保護者 84% (昨年度比24%増)</p> <p>教員の意識については「生徒のレベルに応じた分かりやすい授業にする努力をしている」が肯定的意見90% (昨年度比10%増)「生徒の実態をふまえ、教科として指導方法や学習形態の工夫・改善を行っている」が同93% (昨年度比8%増)であった。また、「教え方に工夫をしている先生が多い」の保護者の肯定的意見も昨年度より大幅に増加していることから、教員の授業力向上への地道な取組みが着実に成果となって表れていると考える。引き続き生徒の学習状況の実態把握を行いながら生徒のニーズに応えられる授業づくりを推進したい。</p> <p>【進路指導等】</p> <p>○「中期的目標2 進路を実現するため、系統的なキャリア教育を推進する」の進路指導については以下の項目を検証した。</p> <p>「選択教科が工夫されていて自分の学びたいことを学べる」 生徒 84% (昨年度比7%増) 保護者 92% (昨年度比3%増)</p> <p>「将来の進路や生き方について考える機会がある」 生徒 90% (昨年度比11%増)</p> <p>教員の意識は「生徒一人ひとりが興味・関心、適性に応じて進路選択ができるよう、きめ細かい情報提供を行っている」の項目が85% (昨年度比9%増)と高い数値を示した。また保護者も昨年度に引き続き高い評価を示している。生徒のニーズに合うキャリア教育の取組みをさらに進め、自分の進路に対して関心を持ち、自ら取り組むような工夫をしていきたい。</p> <p>【生徒指導等】</p> <p>○「中期的目標3・4 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する。自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する。」については以下の項目を検証した。</p> <p>「エンパワメントスクールに入学してよかった」 生徒 86% (昨年度比4%増) 保護者 90% (昨年度比1%増)</p> <p>「学校に行くのが楽しい」 生徒 69% (昨年度比3%増) 保護者 80% (昨年度比10%増)</p> <p>「先生は、いじめなど、私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる」 生徒 90% (前年度比17%増) 保護者 86% (前年度比19%増)</p> <p>「担任の先生以外にも保健室・相談室など、気軽に相談することができる先生がいる」 生徒 68% (前年度比6%増) 保護者 61% (前年度比12%増)</p> <p>「国際理解・国際交流について学習する機会がある」 生徒 65% (前年度比増減なし) 保護者 61% (前年度比14%増)</p> <p>「部活動に積極的に参加している」 生徒 35% (前年度比11%減) 保護者 20% (前年度比10%減)</p> <p>「命の大切さやルールについて学ぶ機会がある」 生徒 83% (前年度比4%増) 保護者 76% (前年度比3%増)</p> <p>教員の地道な取組みにより、部活動への参加に関する項目以外は数値が改善した。一方「学校に行くのが楽しい」の生徒の肯定率が保護者の肯定率と比較して低くなっている点が課題である。学校行事の活性化や部活動をはじめとした生徒の居場所づくりを進める必要がある。</p>	<p>【第1回 6月4日開催】</p> <p>○R4年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「めざす学校像」を「生徒に寄り添い『じりつ』を支える学校」に変更したが教員の反応はどうか → 校内の委員会で検討したうえで教職員と共有している。 ・学校教育自己診断（保護者）で「エンパワメントスクールに行って良かった」の肯定率が89%と高い値になっているがなぜか。 → 各学年のフロアに担任室があり、生徒が相談しやすい環境となっていることも要因の一つだと考えている。 <p>【第2回 10月29日開催】</p> <p>○モジュール授業での課題について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・習熟度別に3つに分けて実施しているが、定期考査の際、問題の作成が煩雑になることから教材は同じにしている。効果的な方法を探している。 ・デジタル教材の導入を提案される。 → 今後授業改善PT等で検討する予定であるが費用の面が課題となりそう。 <p>○進路決定状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・斡旋就職不合格の理由は？ → 「総合的な判断」と聞いている。 ・将来について考える機会をもっと増やした方がいいのではないか → 今後検討していきたい <p>【第3回 3月4日開催予定】</p> <p>○学校経営に係る自己評価（案）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業アンケートの結果は高い数値になっているが、「いい先生とは？」、首席に対して質問あり ・国は生徒に多様性を求めている。国語が得意、数学が得意でいい。授業だけで教師を評価するのは無理があるのではないかと → 見るポイントによって違うがやはり授業は大切な指標。ただアンケートの質問項目が抽象的なことからばらつきが出にくい状況となっている。次年度あえてばらつきが出るような質問項目の設定を考えたい。 <p>○令和4年度学校評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断アンケートの結果について、教職員の学校運営に関する肯定的な回答が非常に低くなっているが何が問題だったのか？ ・質問項目の「大変そう思う」という表現は回答者からすれば答えにくい → 年度当初から想定外のさまざまなトラブルがあり、教員の負担も大きく計画していた取組みを実行に移すことができなかつたことが原因の一つである。運営面での校長の責任を感じている。次年度改めて取り組みたい。 <p>○令和5年度学校経営計画について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の授業を見てみたい → 次年度、学校運営協議会で授業参観も取り入れる。 <p>○スクールポリシーについて</p> <p>※ 令和4年度学校評価、令和5年度学校経営計画、スクールポリシー、全て承認される。</p>

<p>【学校運営】</p> <p>○「中期的目標5 教職員の資質向上と校務の効率化を推進する。」については以下の項目を検証した。</p> <p>「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている」 24%（昨年度比22%減）</p> <p>「学校運営に教職員の意見が反映されている」 29%（昨年度比8%減）</p> <p>「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある」 18%（前年度比17%減）</p> <p>「各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している」 27%（前年度比6%減）</p> <p>「各種会議が有効に機能している」 25%（前年度比6%減）</p> <p>「教職員間の相互理解が十分になされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」 32%（前年度比8%減）</p> <p>「コンピューター等のICT機器が各教科の授業などで活用されている」 85%（前年度比1%減）</p> <p>「校内研修が教育実践に役立つよう、計画的に実施されている」 17%（前年度比45%減）</p> <p>円滑な学校運営については校長のマネジメントに負うところが大きい。この結果を真摯に受け止め、次年度に向けて学校運営の方針の発信や各種会議や委員会の活性化に向けた取組みに尽力したい。</p>	
--	--

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R2年度値]	自己評価
1 確かな学力を育成する	(1) 「わかる授業」「面白い授業」の実践。	(1) ア 基礎学力診断テストを実施し、生徒の学力の把握、授業の改善を図る。 イ・ハイブリット授業推進PTを中心に1人1台端末の活用に向けた取組みを推進する。 ・授業力向上PTを中心とした計画的な校内研修と研究授業の実施。 ・授業アンケートの1回目を課題把握、2回目を成果検証と位置づけ、その成果と課題を全体で共有する。	(1) ・授業アンケート、学校教育自己診断の結果、授業に対する肯定的な回答がそれぞれ、3.44、77%以上となったか。 [3.44、77%]	(1) ・授業アンケート、学校教育自己診断(生徒)の授業に対する肯定的な回答はそれぞれ、3.48、82%と着実に向上している。教員の日頃の授業改善への取組みの成果が表れている。(◎)
	(2) 選択科目やエンパワメントタイムの充実	(2) ・丁寧なガイダンスを行い、進路実現に必要な科目を選択できるよう指導する。 ・生徒の希望する選択科目が開講できるよう時間割を調整するとともに選択科目の追加も検討する。	(2) ・生徒が進路を実現するために必要な科目選択ができるよう、ガイダンスを1回以上開催したか。 ・学校教育自己診断における「選択科目に関する肯定的な意見が」が75%以上となったか。[75%] ・アクティブラーニングが実施できているか。授業アンケートにおける「授業展開に対する肯定的な回答」が3.38以上を維持できたか。[3.38]	(2) ・5月に科目選択説明会を実施。保護者に対しても数回にわたり懇談を通して丁寧な説明を行い10月の本調査につなげた(○) ・学校教育自己診断(生徒)「選択科目に関する肯定的な意見」は84%であった。(◎) ・授業アンケート「授業展開に対する肯定的な回答」は3.40であった。(○)
	(3) 進学特別講習や補習を実施する。	(3) ・進学意欲の高い生徒に対して、1年次より長期休業前等に進学特別講習を実施する。 ・学習理解の促進を図る補習の実施や、学習習慣の確立に向けて、放課後に校内で学習する生徒を増やす。	(3) ・進学特別講習の参加人数、実施回数が前年度を上回ったか。 [55時間のべ140人] ・キャリアガイダンスルームの放課後利用が50人以上となったか。[50人]	(3) ・今年度の進学特別講習は3学年で58時間、参加人数のべ144人で参加人数、実施回数ともに昨年度を上回った。(○) ・キャリアガイダンスルームの放課後利用人数はのべ450人であった。求人票の閲覧や面接練習、進学講習に放課後自習と進路指導全般について様々な用途で活用した。(◎)

府立淀川清流高等学校

<p style="text-align: center;">2 進路を実現するため系統的なキャリア教育を推進する</p>	<p>(1) キャリア教育の視点から、系統的な学習を推進する。</p> <p>(2) 英語や情報に関する資格取得を促し、進路実現につなげる。</p> <p>(3) キャリアプランニングできる力を身につけさせる。</p>	<p>(1) 運営委員会を中心に「キャリア教育ロードマップ」の作成に向けた取組みを計画するとともに、校内研修を実施し、「総合的な探究の時間」「産業社会と人間」「人生設計学」を含めたキャリア教育の系統的な学習を推進する。</p> <p>(2) 英語や情報に関する資格取得を促し、進路実現につなげる。</p> <p>(3) キャリア教育コーディネーターと連携し、説明会や授業など様々な機会を通して、キャリアプランニングする力を身につける取組みを行う。</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断における「生徒のキャリア教育に関する肯定的意見」が80%以上を維持できたか。 [79%] ・ロードマップ作成のための校内研修を2回以上実施することができたか。</p> <p>(2) ・英語検定受験者40人以上となったか。 [16人] ・1年生「社会と情報」の授業において情報試験合格率が70%以上となったか。 [67%]</p> <p>(3) ・進路決定率が95%以上となったか。 [96.3%]</p>	<p>(1) ・学校教育自己診断(生徒)「キャリア教育に関する肯定的な意見」は90%で大幅に向上した。(◎) ・ロードマップ作成のための校内研修は全く実施できなかった。(△)</p> <p>(2) ・英語検定受験者は校内の体制が整わず年間3回の実施予定が10月の第2回のみとなったため受験者数は11名に留まった。(△) ・1年生「社会と情報」の情報試験(日本語ワープロ検定)合格率は67%で目標の数値には届かなかった。(△) 次年度は実施形態を希望者のみに変更する方向で検討中である。</p> <p>(3) ・進路決定率は88%(△)</p>
<p style="text-align: center;">3 生徒一人ひとりに寄り添い、丁寧な生徒指導を推進する</p>	<p>(1) 進路実現に必要な基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成に努める。</p> <p>(2) 生徒理解と中途退学防止の取組みを組織的に発展させる。</p> <p>(3) 家庭、地域、中学校との連携強化と開かれた学校づくりを進める。</p>	<p>(1) ア 遅刻指導、服装指導、頭髪指導など基本的生活習慣の確立に必要な指導を行い、生徒自身が自らの進路を切り開くために必要な力をしっかり身につけさせる。</p> <p>イ 校内において、教員が挨拶を励行することにより生徒に挨拶の習慣付けを行うとともに、登下校時の「あいさつ運動」の取組みを生徒会も巻き込みながら実施し、生徒が自然に挨拶をする雰囲気を醸成する。</p> <p>ウ 登下校時の立ち番の位置や範囲を変更することで生徒の実態に即した指導をおこない、学警連携も含め、通学マナーの指導及び交通安全指導の強化を図る。特に、生徒が被害者、加害者にならないように自転車のマナー指導を強化する。</p> <p>(2) ア 教室はもとより、教育相談室や保健室などでも生徒へのきめ細かな対応が行われるよう教育相談体制を充実させる。 イ 精神科医師や大学教員などの専門家を招いての事例検討会などを実施し、配慮を要する生徒等への支援や指導に向けての教職員の指導力の向上に取り組む。 ウ 担任団、管理職、SSW や SC などの専門人材、家庭、外部機関との連携をさら深め、きめ細かな指導を行う。</p> <p>(3) ア 生徒、教職員、PTA が協力して地域の清掃活動をさらに活発化させる。部活動を通じて高齢者施設や幼稚園、支援学校等との交流を促進する。</p>	<p>(1) ア ・遅刻総数が4,000件以下、欠席総数が6,000件以下となったか。 [遅刻総数4,049件、欠席総数6,841件]</p> <p>イ 学校教育自己診断において、挨拶に対する生徒の肯定的な回答が70%以上となったか。 [66%]</p> <p>ウ 近隣からの指摘の件数や通学マナーでの指導件数が15件以下となったか。 [30件]</p> <p>(2) ア・イ・ウ ・教育相談連絡会、支援委員会など各組織において、充実した生徒支援の論議ができたか。 ・学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答が生徒・教員それぞれ70%、90%以上となったか。 [62%、89%]</p> <p>(3) ア ・地域清掃の参加人数が1回あたり80人を上回ったか。 [一]</p>	<p>(1) ア ・遅刻総数は3,892件と大幅に減少したが欠席総数は9,478件と大幅に増加した(△)</p> <p>イ 学校教育自己診断(生徒)の挨拶に対する肯定的な回答は69%で目標の数値には届かなかったが、生徒会の「あいさつ運動」も含め着実に成果が出ている。(○) 次年度以降も継続して取り組みたい。</p> <p>ウ 近隣からの指摘や通学マナーでの指導件数は21件であった。そのうち、通学マナーでの指導件数は1件と通学マナーの指導強化の成果が見られる。一方、近隣から指摘は20件と多く、新たな取り組みが必要である。(△)</p> <p>(2) ア・イ・ウ ・中学校との情報共有や行政機関との連携については、丁寧に行われており成果が出ている。 ・学校教育自己診断における「教育相談」に対する肯定的な回答は生徒68%(△)、教員73%(△)でどちらも目標値には届かなかった。特に教員の意識が昨年度より低くなっている点については今後の課題である。</p> <p>(3) ア ・2年振りに実施し、1回めは5月で1・2年生の生徒58名、教員10名が参加。2回めは10月に3学年揃って生徒84名、教員10名、保護者1名の参加があった。(○)</p>

府立淀川清流高等学校

		<p>イ 体育祭、文化祭などにおける保護者参加を促し、PTA 活動を活性化する。</p> <p>ウ オープンスクールはもとより、公開授業、出前授業を積極的に行い、エンパワメントスクールとしての本校の新たな取組みを地域や中学生、保護者等にアピールするとともに生徒情報の共有など中高連携のさらなる推進を図る。</p>	<p>・部活動の地域交流の取組み回数が前年度を上回ったか。[フォークソング部1回]</p> <p>イ 学校教育自己診断における「保護者交流」に関する肯定的回答が 60%以上となったか。[46%]</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクールの総参加人数が 400 人以上となったか。[430 人] ・学校教育自己診断における「教育情報の発信に力を入れているに関する肯定的な回答」が 85%以上となったか。[80%] 	<p>・今年度は思育支援学校や大阪北視覚支援学校との交流や東淀川工業協会との交流、幼稚園や保育園との授業を通しての交流など多くの活動を行えた。部活動の地域交流の取組みも年度末に、フォークソング部が思育支援学校と行う予定である。(○)</p> <p>イ 学校教育自己診断(保護者)の「保護者交流」に関する肯定的な回答は 61%と目標を大きく上回った。新型コロナウイルス感染症による制限が徐々に緩和されてきたのが影響していると考え。(◎)</p> <p>ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度から例年 4 回実施しているオープンスクールを 3 回にしての実施としたが総参加人数は 447 名と目標を達成できた。(○) ・学校教育自己診断(保護者)における「教育情報の発信に力を入れているに関する肯定的な回答」は 81%と微増に留まり目標を達成できなかった。情報発信の方法に工夫が必要である。(△)
<p>4 自尊感情、自己有用感を育む教育を推進する</p>	<p>(1) 人権・国際理解・道徳の各教育の取組みを有機的に推進し、豊かな人間関係をつくる力を育成する。</p> <p>(2) 特別活動や生徒会活動を通じて、集団や学校への帰属意識や自己有用感を高める。</p>	<p>(1)</p> <p>ア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同和問題、障がい者理解はもとより、LGBT や情報リテラシーなど、新たな人権教育を実施する。 ・アサーショントレーニング、アンガーマネジメントなどのコミュニケーション力育成の取組みを行う。 <p>イ ユネスコスクールとして、SDGs の視点を踏まえ、JICA 講演、留学生交流など国際理解教育を実施する。</p> <p>ウ 「道徳教育推進教師」を中心に教科を横断した道徳教育の展開を図る。</p> <p>エ 「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止、早期発見、解決に取り組む。</p> <p>オ 新型コロナウイルス感染症については、生徒の安心・安全の確保、学びの保障に努めるとともに、偏見や差別が生じないように指導する。</p> <p>(2)</p> <p>ア・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の自立心や主体的な行動力、集団への帰属意識等をより高めるために、生徒がより自主的に活動できる取組みを増やすなど、体育祭、文化祭等の学校行事のさらなる充実を図る。 <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新入生歓迎会、部活動紹介、体験入部、部活動入部キャンペーン、部活動の発表機会をさらに充実させたり、4 月に入部しなかった生徒が入部しやすい機会を設けたりするとともに、部活動を行うことのメリットを伝える機会を新たに設ける。また、あらゆる機会を捉えて部活動を顕彰する。 ・アンケート等を実施し、クラブ活動に対する生徒のニーズを把握する。 	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ・エ・オ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「人権教育・国際理解教育に関する肯定的意見」がそれぞれ 75%、60%以上となったか。[77%、65%] ・生徒指導案件における「暴力／ネット／人間関係のトラブルに関する事案」が前年度の件数を維持できたか。[10 件] <p>(2)</p> <p>ア・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における「学校生活満足度」が 80%以上を維持できたか。[82%] ・次年度以降の体育祭、文化祭の日程見直しなど、学校行事について更なる工夫改善を行い、生徒が安心安全に行事に参加できるようになったか。 <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入率が 40%以上となったか。[32.4%] ・部活動加入増に向け、クラブ体験を実施するなどの工夫改善を行えたか。 ・ニーズのあるクラブの創設に向け、生徒や教員に対するアンケートを実施し意見集約したか。 	<p>(1)</p> <p>ア・イ・ウ・エ・オ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)における「人権教育・国際理解教育に関する肯定的意見」はそれぞれ 82%(◎)、65%(○)で目標を達成できた。 ・生徒指導案件における「暴力／ネット／人間関係のトラブルに関する事案」の件数は 19 件と増加した。(△) 今年度、人間関係でのトラブルからで指導事案となるケースが多くみられた。今後も多くなることから、人間関係作りに重点をおいた取組みが必要である。 <p>(2)</p> <p>ア・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断(生徒)における「学校生活満足度」は 86%と大きく目標を上回った。(○) ・体育祭や文化祭などの学校行事については新型コロナウイルスの感染対策における入場者やプログラムなどについて制限を緩和して実施した。(○) <p>イ・ウ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、新入生歓迎会においてクラブ紹介や体験入部等、部活動をアピールする取組みを行うことができたが加入率は昨年度よりさらに低くなってしまった。次年度への取組みをさらに強化したい。27.5%(△) ・新入生には合格者登校時と入学後の部活動紹介時にアンケートを実施。教員にも 4 月の顧問調査時に既存のクラブ以外に指導可能なクラブについてアンケートを行った。(○)

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">5 教職員の資質向上と校務の効率化を推進する</p>	<p>(1) 学校運営への参画意識の醸成</p> <p>(2) ウェブ研修コンテンツの活用や研究授業の実施により授業力向上を図る。</p> <p>(3) OJT を中心とした研修を計画的・組織的に実施する。</p> <p>(4) フォロアアップを高め、ミドルリーダーの育成に力を入れる。</p> <p>(5) 教職員の ICT 活用能力を高める。</p> <p>(6) 効率的、効果的な部活動を実施する。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 室制（教育支援室・生活支援室）を廃止し、学校の組織体制を運営委員会を中心とした体制に再構築することで、教職員の意見を反映させ円滑な学校運営につなげる。 <p>(2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃より教員間の授業見学を積極的に行い、全教員参加の全校一斉研究授業の年 1 回以上実施する 教育センターの研修の他、ウェブ研修コンテンツなども活用する。 首席等を活用し、初任者等の経験年数の少ない教員への計画的な校内研修を実施し、資質向上を図る。 <p>(4)</p> <p>教職員間の意思疎通がスムーズかつ積極的に行われるよう、首席をはじめ、ミドルリーダーとなる教員の育成に力を入れる。</p> <p>(5) (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員の授業における ICT 活用率を上昇させる。 教職員が生徒と向き合う時間をさらに確保するために、校務分掌、業務分担の見直しや業務の効率化を図る。 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（教員）の「教職員の意見が学校運営に反映」に関する肯定的な回答が 50%以上となったか。 [37%] 学校教育自己診断（教員）の「各分掌・学年間の円滑な連携と有機的に機能」に関する肯定的な回答が 50%以上となったか [33%] <p>(2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 全校一斉研究授業を 1 回以上実施したか。 初任者等経験年数の少ない教員に対して、授業改善につながる授業分析や指導助言をするため、教員ごとの個別の研究協議を行ったか。 研修を計画的組織的に実施できるよう、全教員に計画を示し、フィードバックを行ったか。 初任者等経験年数の少ない教員の生徒による授業アンケートの結果（項目 3～9 の平均）が 4 点満点中 3.0 以上を維持できたか。 [3.28] <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 首席等ミドルリーダーになりえる人材を育成するため、校外研修等に教員を参加させたか。 PT、会議などでリーダーシップを発揮できるよう、首席やミドルリーダーが司会や業務の整理に進んで取り組んだか。 <p>(5) (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（教員）の「授業での ICT 機器の活用」に関する肯定的な回答が 85%以上を維持できたか。 [86%] 校務分掌や業務分担の見直し、業務の効率化の結果、生徒と向き合う時間の確保ができたか。 教員の超過勤務平均時間を 30 時間以下にできたか。 [17.9 時間] 	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（教員）の「教職員の意見が学校運営に反映している」の肯定的な回答は 29%、また「各分掌・学年間の円滑な連携と有機的に機能」の肯定的な回答についても 27%とどちらも昨年度の数値を下回り目標に届かなかった。(△) 教員の意見を反映させるためにも、運営委員会の活性化が必要である。 <p>(2) (3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 11 月に全校一斉研究授業を実施したが年間を通して計画的に実施できなかった。次年度は計画的に実施したい。(○) 初任者への授業改善のための授業分析や指導助言などの個別の研究協議は実施できた。(○) 授業力向上のための研修については、前年度末に年間計画を提示していたにも関わらず、計画通りに実施できなかった。次年度は計画的な実施を試みたい。(△) 初任者等経験年数の少ない教員による授業アンケートの結果は 3.55 で 3.0 以上を維持できた。(◎) <p>(4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き、経験の少ない若い教員も含め、府教育センターの研修や他校の研修への積極的な参加を促し、首席やミドルリーダーの育成を図りたい。(○) 今年度、PT や各種会議が有効に機能することができなかったため、首席やミドルリーダーがリーダーシップを発揮する場面を作れなかった。次年度の課題としたい。(△) <p>(5) (6)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育自己診断（教員）の「授業での ICT 機器の活用」に関する肯定的な回答は 85%で目標を達成した。(○) 校務分掌や業務分担の見直しを行ったが十分な成果が得られず、業務の効率化が図れたとは言えない。引き続き取組みを継続したい。(△) 教員の超過勤務平均時間は 26.6 時間 (○)